

きのこを好んで食べるハエ

野菜花き試験場

ハエの中には、幼虫がきのこだけを好んで食べる「キノコバエ」という種類があります。きのこ狩りをされる方は、採ったきのこに穴が空いていて、そこから数ミリの幼虫が出てくる場面に出くわした事があるかもしれません。この多くがキノコバエである可能性があり、栽培きのこにも同様の被害をもたらします。キノコバエにも『好み』があり、エノキタケには「トビモンナミキノコバエ」、ブナシメジには「ヤマタナミキノコバエ」、シイタケには「ナガマドキノコバエ」など、きのこの品目によって被害をもたらす種類が異なります。

これらキノコバエは、野生きのこのシーズンである春と秋に発生します。活発に活動する温度は5～20℃位で、昆虫としては低めの気温を好みます。温暖化の影響もあり、近年では12月や2月頃でも成虫が野外で活動していることが確認されています。

キノコバエがきのこ生産施設に侵入してしまうと、成虫が生育途中のきのこに産卵し、ふ化した幼虫が収穫前後のきのこを食い破って外に這い出してきます。施設に侵入させないためには、換気口に目の細かいネットを設置し、不要な隙間を埋める必要があります。施設内では粘着シートや光誘引捕虫機を使用し、侵入したキノコバエが産卵する前に捕虫する対策をとります。野菜花き試験場菌茸部では、キノコバエの対策技術の開発に取り組んでいます。



写真 ヤマタナミキノコバエ（左から卵、幼虫 成虫）

担当者	風間 宏	電話番号	026-278-6848
-----	------	------	--------------

[試験場だより・知って納得コーナーに戻る](#)

[野菜花き試験場に戻る](#)